

タウンミーティング開催結果概要

会議の名称	ESD 地域ミーティング IN 土気			
日時	平成18年10月22日(日) 13:00~17:00			
地域・会場	千葉市	千葉市あすみが丘プラザ	出席人数	48人
主催団体	緑の環			
○発表	<p>○小山町産業廃棄物処分場建設計画をめぐる経緯・課題</p> <p>—千葉市板倉大椎土地改良区が、落札した産廃予定地をどのように復元していくか。農業生産団体が生産しない土地を抱えることは非常に大変なことで、広く市民が協働して解決すべき課題。</p> <p>○現地復旧と長期里山振興に向けた課題（経験交流、発表と討論）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・残土ネットワーク千葉 から</li> <li>—全国の現場を見てきたが、土地改良区が環境を守るために土地を取得し例は初めてではない。ここが全国の模範例となる。</li> <li>・多古町の桜宮自然公園を作る会 から</li> <li>—産廃の焼却場ができるということで、自分たちの山や谷津田を守っていくため自然公園を作った。里山は人の手が加えられて初めてよくなるということを初めて知った。公園には人が来てもらうことが大事。我々が活動を始めて、一番の変化は谷津田に水を張るだけでも生物、赤蛙などが増え、サジバも現れるようになった。コンテストで30選に選ばれ、いい影響をもたらした。栗山川に鮭が遡上するようになったが、産卵場所などが整備されていないので、町に頼んでいる。</li> <li>・里山シンポジウム</li> <li>—1番のお勧めは田んぼに戻すこと。今まで使われてきた方法で利用するのが1番。まず田圃に戻し、学校や地域の方などボランティアで金のない多くの方に参加してもらう、さらに昔の農法で水田にして利用する。そうすれば、生き物の循環ができる。無農薬栽培は大変だが、新しい生態系の発見なども期待できる。</li> </ul>			
○意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然再生促進法ができ土地改良法も変わった。地域ぐるみで農地や水を守る環境保全に向けた営農活動を支援する新しい国の施策が始まっている。</li> <li>・土地を守るのは地主だけの義務ではない。住民が参加できるスキームをつくるのが大事。U字溝を作れば排水は簡単だが、排水路の無いところに土水路はもたない。これからは住民と地主が協力してやっていくため、話し合いながら進めなければならない。組織的にやっていく必要がある。</li> <li>・谷津田の作業をやっていると、人手が足りないことを痛感する。自然環境の保全活動は参加する人達、皆が楽しめることが重要です。</li> <li>・住民と土地所有者が、もっと話し合い現場を見ながら、専門家の意見を聞くようにすれば良い。地域の人達の協働で成果が生まれればすばらしい。</li> </ul>			

タウンミーティング開催結果概要			
会議の名称	環境づくりタウンミーティング（「印旛沼わいわい会議 IN ふなばし」終了後）		
日時	平成18年10月27日（金）17:00～18:10		
地域・会場	船橋市 船橋市北部公民館	出席人数	25人
主催団体	環境パートナーシップちば（有志の方々）		
説明・意見等	<p>○県側から、「(仮称)生物多様性ちば県戦略」策定方針、および環境基本計画見直しについて、概要説明。</p> <p>○本タウンミーティングに対する意見・要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いきなり意見を求められても発言できない。県として何を聞きたいかを伝えるべきではないか。</li> <li>・この場で1回意見を聞いただけで終わりでは、何にもならない。</li> <li>・県民から意見をもらいたいのであれば、詳細な説明資料を示すべきだ。</li> </ul> <p>○主な意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の「わいわい会議」では、印旛沼の環境問題について議論されてきた。この内容も、タウンミーティングの提案として入れるべきだ。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         農業者と消費者との信頼関係が重要、千葉エコ農業はもっと簡素な方法、手続きが必要。地産地消の取り組みへの支援。地域の調整池は、鳥のサンクスチュアリや、生物が生息しているので、ビオトープとして活用する。湧水の出る所は、民有地であることが多いので、湧水保全の仕組みづくりが必要となり、トラスト運動の必要もある。農地から肥料・窒素等を川に流さない。窒素削減のために休耕田の利用を促進する。都市河川の水際を再生することで生物も多くなり、水の浄化にも役立つ。 等       </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業従事者など利害がぶつかる可能性のある者も参加を求め、その気持ちも取り入れていくべき。</li> <li>・実効性が重要。県として人員や予算を割いて重点的に取り組むべき。</li> <li>・行政の取り組みも重要であるが、県民としてどう動いていったら良いかについて知恵を出し合うことも重要。</li> <li>・特別な人にではなく、一般の人に「生物多様性の重要性」などをわかってもらうことが必要。</li> <li>・生物多様性作成チームに、農政部局や他の部局との関連が必要である。</li> <li>・地域での活動を活かすこと。地元の人に加わることが必要である。</li> </ul>		

タウンミーティング 開催結果概要			
会議の名称	生命のにぎわいとつながり（「印旛沼わいわい会議 IN 成田」終了後）		
日 時	平成18年11月9日（木）17:20～18:20		
地域・会場	成田国際文化会館	出席人数	30人
主催団体	手賀沼・印旛沼生物多様性保全・再生実行委員会		
説明・意見等	<p>○県側から、「(仮称)生物多様性ちば県戦略」策定方針等について概要説明。</p> <p>○実行委員会責任者から「導水」に関わるタウンミーティングの趣旨説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・50年前の除草剤について大量のダイオキシン類を含み、それが今、農地や印旛沼を含む湖沼やン待ちの底泥や東京湾内に蓄積されていると、本で紹介されている。印旛沼の湖底土のダイオキシンや富栄養分が花見川を通り東京湾に出て行く。同じ事態が手賀沼でもある。利根川河川や下流域、の影響を科学的に検証すべきであり、生物多様性のためにも基礎的研究体制の充実と、市民を含めて徹底した情報の開示が必須。</li> <li>・環境教育は子供たちを里山等で自由に遊ばせて学ばせることから。</li> <li>・続けられる農業では消費者・国民が農業をどう守っていこうとするのが重要。</li> <li>・印旛沼の生き物再生に向けては、冬期湛水・不耕起栽培など、シジミ等の生物による浄化機能の回復等がとても重要に</li> <li>・飲料水である印旛沼の浄化のため、各家庭での無洗米の利用など生活習慣の見直しも必要。</li> </ul> <p>・本日の「わいわい会議」では、印旛沼の環境問題について議論されてきた。この内容も、タウンミーティングの提案としたい。</p> <p>○主な意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利根川のやまとしじみの減少は北千葉導水以前からあり、うなぎも同様だが何か他の要因があるのではないか。との意見と、それが原因だとの意見も</li> <li>・ましじみは台湾産との見分けが難しいものなどもあり、DNA鑑定等を使い種の確定をすべきである。何れにしる基礎的研究データが重要。</li> <li>・現在も利用されている除草剤のいい面、悪い面をきちんとモニタリングすべき。</li> <li>・農業はプラスチック材を多く使い、これを畑で焼却する人がいるが、低い温度でも有害物が出るため絶対だめ。それを回収するシステムが必要。</li> <li>・千葉県の里山や流域ではゴミの不法投棄の山が築かれており、かつての流域のゴミの山から、いまも、これから何十年後までも地下水への汚染が心配である。この産廃等のゴミによる流域汚染をきちんと調査して情報公開を行うべき</li> </ul> <p>土地利用は合意の上で、十分なコンセンサスが必要。</p>		



タウンミーティング開催結果概要			
会議の名称	生物多様性保全について 大網白里町からの提案		
日時	平成18年11月24日(金) 18:00~20:30		
地域・会場	大網白里町 中央公民館	出席人数	27人
主催団体	「環境会議おおみしらさと21」		
説明	<p>○県側から、次の2点について趣旨説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県環境基本計画について</li> <li>・「(仮称)生物多様性ちば県戦略」策定方針等について説明</li> </ul>		
意見等	<p>○環境基本計画——策定から10年間を経ており、策定当初と現状を比較する資料はあるのか。達成度などを比較検討しなければ、正しい評価はできないのではないか。</p> <p>○里山関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外材の輸入により山は荒廃。一次産業従事者の経済的基盤を考えるべき。</li> <li>・千葉市には、教育の森があり、山林を子供達の教育の場として利用した成功事例がある。町でも自然観察の場として有効利用すべき。</li> <li>・町には、寄附された公有林として「十枝の森」があり、今後ボランティアグループを復活させ、この森を住民憩いの場として保存していきたい。</li> </ul> <p>○九十九里海岸の保全、浜の植生について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九十九里海岸は、現在、ナガラミやハマグリなどの貝類もほとんど無くなり、漁船も姿を消した。原因が潮流の変化で海水が汚れたためと言われているが、原因はそれだけではない。砂浜も狭くなっている。</li> <li>・成東周辺の沼地には、モウセンゴケなど水生植物が多くあった。</li> <li>・町には沼地が多かったが、耕土改善事業等で排水が良好となり、乾田化されて、米の収量は増えたが一方で水生植物は減少した。排水路の工夫等で、ホタルの生息や水生動植物の維持も可能になるのではないか。</li> <li>・現在町では、降雨時に水害を被る地域が多く、住民は困っている。原因は、元来の地形にあるが、各地に点在する沼地を土地利用の目的で埋め立てたため、そのために排水が悪化したことが直接の原因である。根本的解決には、大型の貯水池を造成し、水害防止と、同時に、水辺公園として子供達の環境教育の場に利用することが望ましい。</li> </ul>		